



Sun Blade™ X6220 サーバーモジュールの Windows オペレーティング システムインストールガイド

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

部品番号 820-2100-10
2007年7月、改訂 A

本書についてのご意見・ご感想は、<http://www.sun.com/hwdocs/feedback> のフォームを使って弊社までお送りください。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以降、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記載されている技術に関連する知的所有権を所有しています。特に、これに限定されず、これらの知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されている 1 つまたは複数の米国特許、米国ならびに他の国における 1 つまたは複数の特許または申請中の特許が含まれます。およびその他の国における商標または登録商標です。

本書および本製品は、その使用、複製、再頒布および逆コンパイルを制限するライセンスに基づいて頒布されます。米国 Sun Microsystems 社またはそのライセンス被許者の書面による事前の許可なくして、本書または製品のいかなる部分もいかなる手段および形式によっても複製することを禁じます。

本製品に含まれるサードパーティーソフトウェア(フォントに関するテクノロジーを含む)は、著作権を有する当該各社より米国 Sun Microsystems 社へライセンス供与されているものです。

本製品の一部は、Berkeley BSD systems に由来し、University of California からライセンスを受けています。UNIX は、X/Open Company, Ltd. の米国ならびに他の国における登録商標で、X/Open Company, Ltd. が所有する独占的ライセンス供与権に基づいて、米国 Sun Microsystems 社にライセンス供与されています。

Sun, Sun Microsystems, Sun のロゴマーク、Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Blade, Solaris は、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

SPARC の商標はすべて、ライセンス契約に基づいて使用されており、SPARC International, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標の付いた製品には、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーが採用されています。

AMD Opteron は Advanced Microdevices, Inc. の商標または登録商標です。

OPEN LOOK および Sun™ グラフィカルユーザーインターフェースは、米国 Sun Microsystems 社がユーザーおよびライセンス被許者のために開発したものです。米国 Sun Microsystems 社は、ビジュアルまたはグラフィカルユーザーインターフェースの概念を先駆的に研究、開発し、コンピュータ業界に貢献した Xerox 社の努力を高く評価いたします。米国 Sun Microsystems 社は、Xerox グラフィカルユーザーインターフェースに対する非独占的ライセンスを Xerox 社から受けています。このライセンスは、OPEN LOOK GUI を採用する米国 Sun Microsystems 社のライセンス被許者に対しても適用されます。また適用されない場合でも、それらライセンス被許者は米国 Sun Microsystems 社のライセンス契約文書に遵守することとなります。

米国政府の権利 - 商用。政府関連のユーザーは、米国 Sun Microsystems 社の標準ライセンス契約、および FAR とその補足条項に従う必要があります。

本書は、「現状のまま」の形で提供され、法律により免責が認められない場合を除き、商品性、特定目的への適合性、第三者の権利の非侵害に関する暗黙の保証を含む、いかなる明示的および暗示的な保証も伴わないものとします。

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, Californie 95054, Etats-Unis. Tous droits réservés.

Sun Microsystems, Inc. a les droits de propriété intellectuelle relatants à la technologie qui est décrit dans ce document. En particulier, et sans la limitation, ces droits de propriété intellectuelle peuvent inclure un ou plus des brevets américains énumérés à <http://www.sun.com/patents> et un ou les brevets plus supplémentaires ou les applications de brevet en attente dans les Etats-Unis et dans les autres pays.

Ce produit ou document est protégé par un copyright et distribué avec des licences qui en restreignent l'utilisation, la copie, la distribution, et la décompilation. Aucune partie de ce produit ou document ne peut être reproduite sous aucune forme, par quelque moyen que ce soit, sans l'autorisation préalable et écrite de Sun et de ses bailleurs de licence, s'il y en a.

Le logiciel détenu par des tiers, et qui comprend la technologie relative aux polices de caractères, est protégé par un copyright et licencié par des fournisseurs de Sun.

Des parties de ce produit pourront être dérivées des systèmes Berkeley BSD licenciés par l'Université de Californie. UNIX est une marque déposée aux Etats-Unis et dans d'autres pays et licenciée exclusivement par X/Open Company, Ltd.

Sun, Sun Microsystems, le logo Sun, Java, AnswerBook2, docs.sun.com, Sun Blade et Solaris sont des marques de fabrique ou des marques déposées de Sun Microsystems, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays.

Toutes les marques SPARC sont utilisées sous licence et sont des marques de fabrique ou des marques déposées de SPARC International, Inc. aux Etats-Unis et dans d'autres pays. Les produits portant les marques SPARC sont basés sur une architecture développée par Sun Microsystems, Inc.

AMD Opteron est une marque de fabrique ou une marque déposée de Advanced Microdevices, Inc.

L'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et Sun™ a été développée par Sun Microsystems, Inc. pour ses utilisateurs et licenciés. Sun reconnaît les efforts de pionniers de Xerox pour la recherche et le développement du concept des interfaces d'utilisation visuelle ou graphique pour l'industrie de l'informatique. Sun détient une licence non exclusive de Xerox sur l'interface d'utilisation graphique Xerox, cette licence couvrant également les licenciées de Sun qui mettent en place l'interface d'utilisation graphique OPEN LOOK et qui en outre se conforment aux licences écrites de Sun.

LA DOCUMENTATION EST FOURNIE "EN L'ÉTAT" ET TOUTES AUTRES CONDITIONS, DECLARATIONS ET GARANTIES EXPRESSES OU TACITES SONT FORMELLEMENT EXCLUES, DANS LA MESURE AUTORISÉE PAR LA LOI APPLICABLE, Y COMPRIS NOTAMMENT TOUTE GARANTIE IMPLICITE RELATIVE A LA QUALITE MARCHANDE, A L'APTITUDE A UNE UTILISATION PARTICULIERE OU A L'ABSENCE DE CONTREFAÇON.



リサイクル
してください



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. 概要 1

Windows Server 2003 のインストールについて 1

インストールに関する重要な考慮事項 2

サポートされている Windows オペレーティングシステム 3

2. インストール手順 5

Windows のインストール方法 6

3. サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 7

4. 取得方法の選択 9

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択 10

Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択 11

5. 大容量記憶装置ドライバ取得の準備 13

ドライバフロッピーディスクの作成 13

Windows を使用したドライバフロッピーディスクの作成 14

Linux または Solaris を使用したドライバフロッピーディスクの作成 18

フロッピーディスクイメージファイルのコピー	20
Windows を使用したフロッピーディスクイメージファイルのコピー	21
Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクイメージファイルの コピー	22

6. JavaRConsole システムの設定	25
JavaRConsole システムの要件	26
JavaRConsole システムのセットアップ	26
7. Windows Server 2003 のインストール	31
インストール要件	31
オペレーティングシステムのインストール	32
8. 重要なシステム固有のドライバのアップデート	41
システム固有ドライバのアップデート	41
オプションコンポーネントのインストール	45
9. RIS イメージへのプラットフォームドライバの組み込み	47
必要なドライバの確認	47
RIS イメージへのドライバの追加	48
▼ RIS イメージにドライバを追加する	48
10. Sun Installation Assistant CD の使用	51
Sun Installation Assistant CDについて	51
エラーメッセージ	52
ログファイルの使用	52
Sun Installation Assistant の使用	53
開始前のご注意	53
▼ Sun Installation Assistant をインストールする	53
作業方法	54

索引	61
----	----



-
- 図 5-1 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」
ダイアログボックス 15
 - 図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス 16
 - 図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージ 16
 - 図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス 17
 - 図 6-1 URL の例 26
 - 図 6-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス 27
 - 図 6-3 ログイン画面 27
 - 図 6-4 ILOM GUI の「Version Information (バージョン情報)」画面 28
 - 図 6-5 ILOM GUI の「Remote Control (リモートコントロール)」画面 28
 - 図 6-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックス 29
 - 図 6-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックス 29
 - 図 6-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー 30
 - 図 7-1 F8 のプロンプト 33
 - 図 7-2 「Boot Device (ブートデバイス)」メニュー 33
 - 図 7-3 追加デバイスの指定画面 34
 - 図 7-4 SCSI アダプタの選択画面 35
 - 図 7-5 追加デバイスの指定画面 36
 - 図 7-6 SCSI アダプタの選択画面 36
 - 図 7-7 追加デバイスの指定画面 37
 - 図 7-8 Windows セットアップの起動画面 38

図 7-9	セットアップの選択画面	38
図 7-10	ディスクの取り出しメッセージ	39
図 8-1	Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックス	42
図 8-2	Sun Blade インストールウィザード	43
図 8-3	End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)	43
図 8-4	インストール完了画面	44
図 8-5	システム設定変更画面	44
図 8-6	オプションコンポーネントのダイアログボックス	45
図 8-7	Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックス	46
図 10-1	リモートアップデートの有無による作業の流れ	54
図 10-2	Sun Installation Assistant の「Welcome (ようこそ)」画面	55
図 10-3	Sun Installation Assistant の「Remote Update (リモートアップデート)」画面	56
図 10-4	Sun Installation Assistant の「Identifying the System (システムの識別)」画面	57
図 10-5	Sun Installation Assistant 用デバイスのスキャン	57
図 10-6	Sun Installation Assistant によるインストール開始のダイアログボックス	58
図 10-7	Sun Installation Assistant セットアップ完了画面	60
図 10-8	Microsoft 使用許諾契約書画面	60

はじめに

本書『Sun Blade X6220 サーバーモジュールのWindows オペレーティングシステムインストールガイド』では、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

関連ドキュメント

Sun Blade X6220 サーバーモジュールのドキュメントセットの説明は、システムに付属している『ドキュメントの場所』シートを参照するか、製品のドキュメントサイトをご覧ください。次の URL を参照し、ご使用の製品のページに移動してください。

<http://www.sun.com/documentation>

これらのドキュメントの一部については、上記に記載された Web サイトでフランス語、簡体字中国語、繁体字中国語、韓国語、日本語の翻訳版が入手可能です。英語版は頻繁に改訂されており、翻訳版よりも最新の情報が記載されています。

Sun ハードウェアのすべてのドキュメントについては、次の URL を参照してください。

<http://www.sun.com/documentation>

Solaris および他のソフトウェアのマニュアルについては、次の Web サイトを参照してください。

<http://docs.sun.com>

サードパーティーの Web サイト

Sun 社は、本書で挙げているサードパーティーの Web サイトの利用について責任を負いません。また、当該サイトまたはリソースから入手可能なコンテンツや広告、製品またはその他の素材を推奨したり、責任あるいは法的義務を負うものではありません。さらに、他社の Web サイトやリソースに掲載されているコンテンツ、製品、サービスなどの使用や依存により生じた実際の、または疑わしい損害や損失についても責任を負いません。

表記上の規則

字体*	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、および画面上のコンピュータ出力を示します。	<code>dir</code> を使用してすべてのファイルを表示します。
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力とは区別して示します。	> ipconfig Password:
AaBbCc123	書名、新しい用語、強調する語句、および変数を示します。変数の場合には、実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	『 <i>User's Guide</i> (ユーザーズガイド)』の第 6 章を参照してください。 これらはクラスオプションと呼ばれます。 これを行うには、管理者権限が必要です。 ファイルを削除するには、 <code>del <ファイル名></code> と入力します。
AaBbCc123	ダイアログボックスのタイトル、ダイアログボックス内のテキスト、オプション、メニュー項目、およびボタン。	1. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。

* ご使用のブラウザの設定によっては、表示内容が多少異なる場合もあります。

コメントをお寄せください

Sun 社は、ドキュメントの改善を常に心がけており、皆様のコメントや提案を歓迎いたします。コメントは次のサイトを通してお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

フィードバックには、本書のタイトルと部品番号を記載してください。

『Sun Blade X6220 サーバーモジュールの Windows オペレーティングシステムインストールガイド』、部品番号 820-2100-10

概要

この章では、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする前に知っておく必要のある情報について説明します。

注 – この章には、インストール処理中に役立つ重要なガイドラインおよび情報が記載されています。Windows Server 2003 のインストールを開始する前に、章の以降の部分に必ず目を通してください。

この章には次のセクションがあります。

- 「Windows Server 2003 のインストールについて」 (1 ページ)
- 「インストールに関する重要な考慮事項」 (2 ページ)
- 「サポートされている Windows オペレーティングシステム」 (3 ページ)

第 2 章では、Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを完了するために実行する必要がある手順を説明します。

Windows Server 2003 のインストールについて

Sun Blade X6220 サーバーモジュールには、Windows Server 2003 オペレーティングシステムに付属していないサーバー固有のドライバが追加が必要です。本書の以降の章で、オペレーティングシステムおよびドライバへのアクセス方法、ならびにこれらのインストール方法を説明します。このインストール手順は、32 ビットおよび 64 ビット両方のバージョンの Microsoft Windows Server 2003 で実行できます。

インストールに関する重要な考慮事項

Sun Blade X6220 サーバーモジュールへの Windows Server 2003 オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、次の重要事項について検討してください。

- Windows オペレーティングシステムをインストールするときに、あらかじめインストールされていたオペレーティングシステムを含め、ブートドライブのすべてのデータが上書きされます。
- インストール時に最も注意すべき点は、Sun Blade X6220 サーバーモジュールで用いられるディスクコントローラ用に、大容量記憶装置ドライバをインストールすることです。Microsoft Windows Server 2003 のメディアには、オペレーティングシステムのインストールに必要な大容量記憶装置ドライバが収録されていません。

Windows の場合、フロッピーディスクを介して大容量記憶装置ドライバを取得する必要があります。Windows のインストールプログラムでは、フロッピーディスクドライブ A からのみ、大容量記憶装置ドライバを読み込むことができます。大容量記憶装置ドライバの取得に関しては、CD や DVD、または USB フラッシュドライブなど、他のデバイスはサポートされていません。

Windows Server 2003 のインストール用のドライバを利用するには、次の 3 つの方法があります。

- Sun Blade X6220 サーバーモジュールに物理的に接続された USB フロッピーディスクドライブを使用します。
- RKVMS¹ を使用して、JavaRConsole² が動作している別のシステム (JavaRConsole システム) の物理フロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- RKVMS を使用して、JavaRConsole システムのフロッピーディスクイメージファイルにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- また、インストール用の Windows Server 2003 のメディアを、次の 3 つの方法で利用することもできます。
 - Sun Blade X6220 サーバーモジュールに物理的に接続された USB CD ドライブを使用します。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの物理 CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
 - RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows CD イメージに CD ドライブをリダイレクトします。

選択した方法によっては、最低 2 つのポートを備えた USB ハブが必要です。

1. RKVMS-リモートのキーボード、ビデオ、マウス、ストレージ。ネットワークに接続されたシステムを介して、サーバーのキーボード、ビデオ出力、マウス、およびストレージデバイスのリダイレクトを可能にします。

2. JavaRConsole-ネットワークに接続されたシステムから実行されるリモートコンソール。

第 2 章のインストール手順に従うと、大容量記憶装置ドライバおよびオペレーティングシステムのメディアのインストール方法を選択できます。

RKVMS を使用してインストールする場合は、どの方法でも、『Integrated Lights-Out Manager(ILOM)Administration Guide for ILOM 1.1.1(ILOM 1.1.1 管理ガイド)』で、インストールに必要なハードウェアのセットアップの詳細を参照する必要があります。

サポートされている Windows オペレーティングシステム

本書の発行時点で、Sun Blade X6220 サーバーモジュールは、次の Microsoft Windows オペレーティングシステムをサポートしています。

- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Standard Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、SP1 以降、Enterprise Edition (32 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Standard x64 Edition (64 ビット)
- Microsoft Windows Server 2003、Enterprise x64 Edition (64 ビット)

サポートされているオペレーティングシステムの最新のリストは、次の URL で参照できます。

Sun Blade X6220 サーバーモジュールの場合

<http://www.sun.com/servers/blades/x6220/os.jsp>

インストール手順

この章では、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールするために実行する手順の概要を説明します。

注 – Preboot Execution Environment (PXE) サーバーを使用して Windows Server 2003 をインストールする場合は、第 9 章の「RIS イメージへのプラットフォームドライバの組み込み」(47 ページ) を参照してください。

選択した方法によっては USB ハブが必要です。開始する前に、次にアクセスできることを確認してください。

- Windows Server 2003 のインストールメディア
- Sun Blade X6220 サーバーモジュールのインストールメディア
- USB で接続したキーボードとマウス
- モニター
- USB で接続した CD/DVD ドライブ
- USB フロッピーディスクドライブとフロッピーディスク
- USB ハブ (選択したインストール方法による)
- Sun Blade X6220 サーバーモジュールの前面スロットに接続する最低 2 つのポートを備えた USB ドングルコネクタ

注 – ご使用のサーバーモジュールには USB ポートが 2 つしかありません。必要に応じて、キーボード、マウス、および CD ドライブ用の USB ハブを接続するために、システムに付属のドングルケーブルを使用してください。そうすることにより 2 番目の USB ポートを USB フロッピーディスクドライブ用に使用できます。

フロッピーディスクドライブを使用してインストールする場合は、USB フロッピーディスクドライブを USB ドングルコネクタのポートに直接接続する必要があります (第 7 章を参照)。

Windows のインストール方法

CD メディアから Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Windows をインストールする場合は、次の手順をこの順序で実行します。

1. [サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#) (第 3 章を参照)。
2. [取得方法の選択](#) (第 4 章を参照)。
3. [大容量記憶装置ドライバ取得の準備](#) (第 5 章を参照)。
4. [JavaRConsole システムの設定](#) (必要に応じて、第 6 章を参照)。
5. [Windows Server 2003 のインストール](#) (第 7 章を参照)。
6. [重要なシステム固有のドライバのアップデート](#) (第 8 章を参照)。

この手順を完了すると、Windows Server 2003 オペレーティングシステムを正常にインストールできているはずです。

サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要なサーバー固有のドライバパッケージをダウンロードする方法を説明します。

注 – ツールとドライバの CD がある場合は、この章をスキップして第 4 章に進みます。この CD は、サーバー固有のドライバを最初にインストールするときに使用できます。

次に、Windows Server 2003 のインストールに使用できるサーバー固有のドライバパッケージを示します。

- InstallPack.exe (すべてのシステム固有のデバイスドライバをインストールするプログラム)
- FloppyPack.zip (LSI 1068E ドライバおよび AMI 仮想フロッピーディスクドライバのみ)
- DriverPack.zip (上級者向けの Windows Server 2003 のシステム固有のドライバのアーカイブで、英語版)。第 9 章で説明する PXE インストールを実行する場合は、このファイルをダウンロードします。
- OptPack.zip (上級者向けのオプションコンポーネントのアーカイブ)。PXE インストールにオプションコンポーネントを組み込む場合は、このファイルをダウンロードします。

注 – ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、FloppyPack_1_1_2.zip のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

ドライバをダウンロードするには、次の手順に従います。

1. ドライバのダウンロードサイトに移動します。

Sun Blade X6220 サーバーモジュールの場合

<http://www.sun.com/servers/blades/x6220/downloads.jsp>

2. 補足情報ページでダウンロードボタンをクリックします。

3. 製品のダウンロードページでダウンロードボタンをクリックします。

4. Sun Download Center にログインします。

5. ツールとドライバの CD イメージまたは Windows 2003 サーバープラットフォームのセクションからファイルをダウンロードします。

6. 次のいずれかの手順を実行します。

- Windows Server 2003 のメディアをインストールする場合は、インストール中にアクセスできるハードドライブまたはメディアに、FloppyPack.zip と InstallPack.exe の両方のファイルをダウンロードします。
- PXE を使用して Windows Server 2003 をインストールする場合 (上級者向け) は、PXE サーバーに DriverPack.zip ファイルをダウンロードします。

注 - ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、FloppyPack_1_1_2.zip のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

7. オペレーティングシステムのインストールを開始するとき、ドライバパッケージが使用できることを確認します。第 4 章に進み、取得方法を選択します。

取得方法の選択

この章では、インストール用の大容量記憶装置ドライバおよび Windows のメディアの取得方法をどのように選択するかについて説明します。

大容量記憶装置ドライバおよび Windows Server 2003 のメディアの取得方法を選択するには、次の手順を実行します。

1. 「[大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択](#)」の手順に従います。
2. 「[Windows Server 2003 のメディアの取得方法の選択](#)」の手順に従います。
3. 選択した取得方法をメモしてから、[第 5 章](#)に進みます。

注 – [第 10 章](#)で説明する Sun Installation Assistant を使用することもできます。

大容量記憶装置ドライバの取得方法の選択

Sun Blade X6220 サーバーモジュールで Windows Server 2003 をインストールするために大容量記憶装置ドライバを準備するには、次の 3 つの方法を使用できます。場合によっては USB ハブにアクセスする必要があります。

- **フロッピーローカル**: Sun Blade X6220 サーバーモジュールに物理的に接続された外部 USB フロッピーディスクドライブを使用します。この方法では USB ハブを使用する必要がある場合があります。
- **フロッピーリモート**: RKVMS を使用して、JavaRConsole が動作している別のシステム (JavaRConsole システム) に物理的に接続されたフロッピーディスクドライブにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。
- **フロッピーイメージ**: RKVMS を使用して、JavaRConsole システムのフロッピーディスクイメージファイルにフロッピーディスクデバイスをリダイレクトします。

表 4-1 で、自分の環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

大容量記憶装置ドライバの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
フロッピーローカル	<ul style="list-style-type: none">• 次の Windows Marketplace サイトで「Designed for Windows (Windows 専用)」* と表示されている USB 外付けフロッピーディスクドライブ： http://testedproducts.windowsmarketplace.com/• フロッピーディスク	簡単
フロッピーリモート	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6220 サーバーモジュールのネットワーク管理ポートとその接続フロッピーディスクドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム• フロッピーディスク	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーローカルの方法よりもわずかに長くなります。
フロッピーイメージ	<ul style="list-style-type: none">• Sun Blade X6220 サーバーモジュール管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル: インストールにかかる時間は、フロッピーディスクローカルの方法よりもわずかに長くなります。

* Windows 専用の USB フロッピーディスクドライブを使用しないと、OS のインストールでドライバがインストールされたように見えても、システムのレポート時に Windows セットアップのグラフィック部分でドライバが見つからず、エラーメッセージが表示されてインストールが正常に終了しません。

Windows Server 2003 のメディアの 取得方法の選択

Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Windows Server 2003 をインストールするために Windows メディアを準備するには、次の 3 つの方法があります。

- *Windows ローカル*：Sun Blade X6220 サーバーモジュールに接続された物理 DVD/CD ドライブを使用します。この方法では USB ハブを使用する必要がある場合があります。
- *Windows リモート*：RKVMS を使用して、JavaRConsole システムに物理的に接続された CD ドライブに CD ドライブをリダイレクトします。
- *Windows イメージ*：RKVMS を使用して、JavaRConsole システムの Windows メディアイメージファイルに CD ドライブをリダイレクトします。

表 4-2 で、自分の環境の必要性に合った方法を選択します。選択した方法をメモしておいてください。

表 4-2 Windows Server 2003 のメディアの取得方法

大容量記憶装置ドライブの取得方法	その他の要件	設定およびインストールの難易度
Windows ローカル	物理 CD ドライブをサーバーモジュールに接続するには、システムに付属のドングルケーブルを使用して USB ハブを接続します。そうすることでキーボード、マウス、および CD/DVD を接続できるようになります。Windows Marketplace サイト (http://testedproducts.windowsmarketplace.com) を参照して、CD/DVD ドライブが「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されていることを確認してください。	簡単
Windows リモート	Sun Blade X6220 サーバーモジュールのネットワーク管理ポートとその接続 CD/DVD ドライブにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル：インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。
Windows イメージ	Sun Blade X6220 サーバーモジュール管理ネットワークポートにネットワークアクセスできる JavaRConsole システム	中レベル：インストールにかかる時間は、Windows ローカルの方法よりもかなり長くなります。

大容量記憶装置ドライバ取得の準備

この章では、Windows Server 2003 のインストールに必要な大容量記憶装置ドライバのメディアを準備する手順を説明します。

第 4 章で選択した方法に応じて、この章で説明する次のいずれかの手順に従います。表 5-1 を参照してください。

表 5-1 大容量記憶装置ドライバの取得方法

取得方法	手順記載セクション
フロッピーローカル	ドライバフロッピーディスクの作成
フロッピーリモート	ドライバフロッピーディスクの作成
フロッピーイメージ	フロッピーディスクイメージファイルのコピー

ドライバフロッピーディスクの作成

フロッピーローカルまたはフロッピーリモートの方法で取得する場合は、Windows のインストールを続行する前に、ドライバを保存したフロッピーディスクを作成する必要があります。

次のシステム設定などが使用できることを確認してください。

- フロッピーディスクデバイスが接続されたシステム この場合は USB ハブが必要になることがあります。詳細は表 4-2 を参照してください。
- フロッピーディスク
- FloppyPack.zip (このパッケージの入手についての詳細は、第 3 章を参照)

使用中のシステムに応じて、次のいずれかのセクションの手順に従って、フロッピーディスクを作成します。

- Windows を使用したドライバフロッピーディスクの作成
- Linux または Solaris を使用したドライバフロッピーディスクの作成

Windows を使用したドライバフロッピーディスクの作成

Windows システムを使用してフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. ドライバフロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
 - ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順でファイルをコピーします。
 - a. 必要に応じ、指示に従って、フロッピーディスクデバイスを接続した Windows システムにツールとドライバの CD を挿入します (表 4-2 を参照)。
 - b. FloppyPack ファイルが保存されている次のフォルダに移動します。

```
windows\w2k3\packages\FloppyPack
```

注 – ドライバパッケージの完全な名前には、ファイル拡張子の前にバージョン番号が付きます。たとえば、FloppyPack_1_1_2.zip のようになります。本書では、わかりやすいように、この番号をファイル名に付けません。

- c. ファイルを Windows システムのディレクトリにコピーします。
 - ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、解凍します。
 - a. Microsoft Windows ソフトウェアを使用中でフロッピーディスクデバイスが搭載されているシステムで、FloppyPack.zip ファイルを一時ディレクトリにコピーします。
 - b. Windows エクスプローラを起動します。
 - c. ダウンロードしたファイルを保存したフォルダに移動します。
 - d. FloppyPack.zip を選択します。

- e. 「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。¹
 - f. ファイルを新しい (空の) フォルダに解凍します。
2. 「**自動作成の実行**」または「**手動作成の実行**」の手順に従って、ドライバフロッピーディスクを作成します。

自動作成の実行

この方法では、ドライバフロッピーディスクが自動的に作成されます。

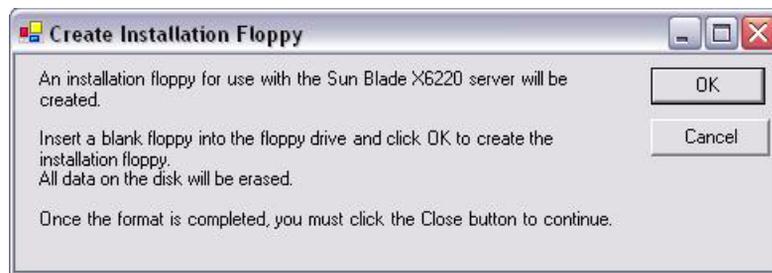
自動作成を実行するには、次の手順に従います。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをシステムのフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. Windows エクスプローラを起動し、解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
3. Windows エクスプローラで、解凍されたファイルのあるディレクトリを開き、`mkfloppy.exe` をダブルクリックします。

注 – アプリケーションが起動しない場合は、`mkfloppy.exe` アプリケーションと同じフォルダにある `README.RTF` ファイルを確認してください。

「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-1 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」ダイアログボックス

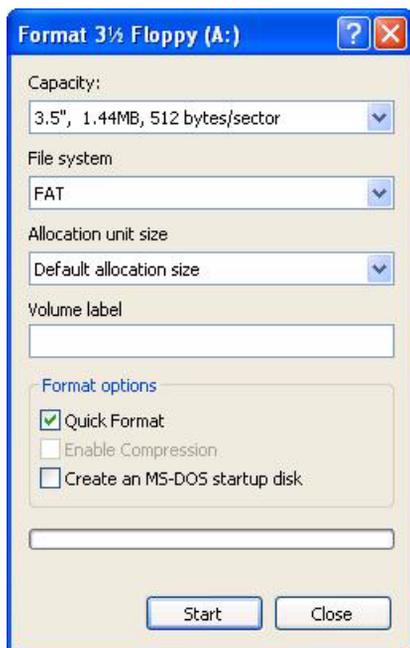


1. 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

4. 「OK」をクリックします。

「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-2 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス



5. フロッピーディスクのフォーマット設定を指定し、「開始」をクリックします。

この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。

6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。

フロッピーディスクにファイルをコピーしていることを示す「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージが表示されます。

図 5-3 「Create Installation Floppy (インストールフロッピーディスクの作成)」メッセージ



7. ファイルがコピーされたら、「OK」をクリックします。
大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクが作成されます。
8. [第 6 章](#)に進みます。

手動作成の実行

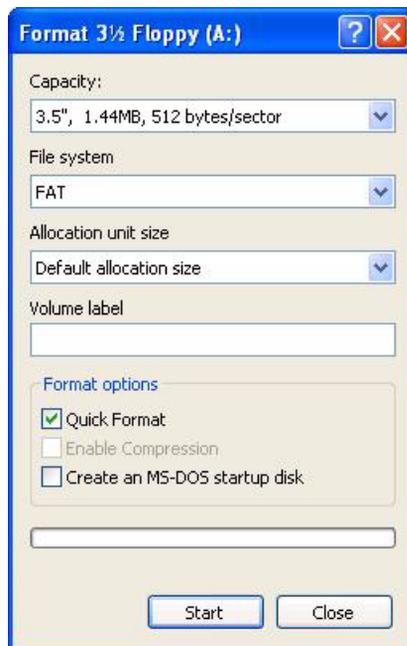
この方法では、ドライバフロッピーディスクの作成に必要な各手順をユーザーが実行する必要があります。

手動作成を実行するには、次の手順に従います。

1. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。
2. **Windows エクスプローラ**を起動します。
3. フロッピーディスクを挿入したフロッピーディスクドライブを右クリックします。
ショートカットメニューが表示されます。
4. 「フォーマット」を選択します。

「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックスが表示されます。

図 5-4 「フォーマット - 3.5 インチ FD (A:)」ダイアログボックス



5. フロッピーディスクをフォーマットするための設定を指定し、「開始」をクリックします。
この手順では、「クイックフォーマット」で問題ありません。
6. フォーマットが終了したら、「閉じる」をクリックします。
7. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
8. 「編集」メニューの「すべて選択」をクリックします。
9. マウスの左ボタンを押したまま、選択したファイルをフロッピーディスクドライブにドラッグ&ドロップします。²
大容量記憶装置ドライバフロッピーディスクが作成されます。
10. [第 6 章](#)に進みます。

Linux または Solaris を使用したドライバ フロッピーディスクの作成

次に、Linux または Solaris システムを使用してドライバフロッピーディスクを作成する場合の手順を示します。

Linux または Solaris システムを使用してドライバフロッピーディスクを作成するには、次の手順に従います。

1. フロッピーディスクの作成に使用するシステムにドライバパッケージをコピーします。
 - ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。
 - a. /tmp/files ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```
 - b. CD をシステムに挿入し、必要に応じて CD をマウントします。
 - c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/windows/w2k3/packages/FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
 - d. ツールとドライバの CD から /tmp/files ディレクトリにファイルをコピーします。

```
% cp -r * /tmp/files
```

2. Winzip を使用してファイルを解凍した場合は、ディレクトリ構造が保持されないので、ファイルをドラッグ&ドロップしないでください。

- ダウンロードサイトから `FloppyPack.zip` をダウンロードした場合は、次の手順に従います。
 - a. `/tmp` ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp
```
 - b. 次のいずれかの手順を実行します。
 - ドライバをメディアにコピーした場合
 - i. メディアをシステムに挿入します。
 - ii. メディアをマウントします。
 - iii. 次の例に示すように、ファイルをシステムにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_0_6.zip /tmp
```

directory には、`FloppyPack.zip` ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。

 - ファイルを直接システムにダウンロードした場合
 - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
 - ii. 次の例に示すように、ファイルを `/tmp` ディレクトリにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_n_n.zip /tmp
```

directory には、`FloppyPack.zip` ファイルをダウンロードしたシステム上のディレクトリを指定します。*n_n* はバージョン番号です。
 - c. `/tmp` ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp
```
 - d. `FloppyPack.zip` ファイルを解凍します。

次に例を示します。

```
% unzip FloppyPack_1_n_n.zip
```

これによって、新しい `files` ディレクトリが作成されます。
- 2. `files` ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp/files
```
- 3. 書き込み可能なフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入します。

4. フロッピーディスクをシステムにマウントします。
使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。
Solaris の場合
% `volcheck`
Linux の場合
% `mkdir /mnt/floppy`
% `mount /dev/fd0 /mnt/floppy`
5. `files` ディレクトリのファイルおよびフォルダをドライバフロッピーディスクにコピーします。
使用中のオペレーティングシステムに応じて、次の例を参照してください。
Solaris の場合
% `cp -r * /floppy/floppy0`
Linux の場合
% `cp -r * /mnt/floppy`
6. [第 6 章](#)に進みます。

フロッピーディスクイメージファイルのコピー

フロッピーイメージの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、この手順に従います。

まず、JavaRConsole システムでドライバファイルが適切に動作することを確認してください。システムは、ドライバのダウンロードサイトからダウンロードした、またはツールとドライバの CD (707-0095-10 以降) に収録されている `FloppyPack.zip` ドライバパッケージにアクセスする必要があります。パッケージのダウンロードについては、「[サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード](#)」で説明しています。

JavaRConsole システムで実行中のオペレーティングシステムに応じて、次のいずれかの手順を選択します。

- [Windows を使用したフロッピーディスクイメージファイルのコピー](#)
- [Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクイメージファイルのコピー](#)

Windows を使用したフロッピーディスクイメージファイルのコピー

Windows システムを使用してフロッピーディスクのイメージファイルを作成するには、次の手順に従います。

1. ドライバファイルを準備します。
 - ツールとドライバの CD を使用してフロッピーディスクパッケージにアクセスする場合は、次の手順に従います。
 - a. CD を JavaRConsole システムに挿入します。
 - b. 次のフォルダに移動します。

```
windows\w2k3\packages\FloppyPack
```

フォルダにはバージョン番号も含まれています。
 - ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順に従ってファイルをコピーし、解凍します。
 - c. FloppyPack.zip ファイルを一時フォルダにコピーします。
 - d. Windows エクスプローラを起動します。
 - e. ダウンロードしたファイルを保存した一時フォルダに移動します。
 - f. FloppyPack.zip を選択し、「ファイル」メニューの「すべて展開」をクリックします。³
 - g. 解凍したファイルのあるフォルダに移動します。
2. image フォルダに移動します。
3. インストール中に使用できるシステム上のフォルダに floppy.img ファイルをコピーします。
4. floppy.img ファイルの場所をメモしてから、第 6 章に進みます。

3. 使用中のバージョンの Windows エクスプローラで圧縮フォルダがサポートされていない場合は、サードパーティのユーティリティを使用して zip ファイルの中身を解凍します。解凍後、ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。

Linux または Solaris を使用したフロッピーディスクイメージファイルのコピー

1. ドライバファイルを準備します。

- ツールとドライバの CD を使用してドライバファイルにアクセスしている場合は、次の手順に従います。

a. JavaRConsole システム上に /tmp/files ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp/files
```

b. CD を JavaRConsole システムに挿入し、必要に応じて CD をシステムにマウントします。

c. 次の例に示すように、ツールとドライバの CD の FloppyPack ディレクトリに移動します。

```
% cd /mnt/cdrom/windows/w2k3/FloppyPack
```

ディレクトリにはバージョン番号も含まれています。

d. ツールとドライバの CD から JavaRConsole システム上の /tmp/files ディレクトリにファイルをコピーします。

```
% cp -r * /tmp/files
```

- ダウンロードサイトから FloppyPack.zip をダウンロードした場合は、次の手順でファイルを解凍します。

a. JavaRConsole システム上に /tmp ディレクトリを作成します。

```
% mkdir /tmp
```

b. 次のいずれかの手順を実行します。

■ ドライバをメディアにコピーした場合

i. メディアをシステムに挿入します。

ii. 必要に応じて、メディアをシステムにマウントします。

iii. 次の例に示すように、ファイルを JavaRConsole システムにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp
```

directory には、FloppyPack.zip ファイルをコピーしたメディア上のディレクトリを指定します。

- ファイルを直接 JavaRConsole システムにダウンロードした場合
 - i. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。
 - ii. 次の例に示すように、ファイルを /tmp ディレクトリにコピーします。

```
% cp directory/FloppyPack_1_1_1.zip /tmp
```

directory には、FloppyPack.zip ファイルをダウンロードした JavaRConsole システム上のディレクトリを指定します。
 - c. /tmp ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp
```
 - d. FloppyPack.zip ファイルを解凍します。
次に例を示します。

```
% unzip FloppyPack_1_1_1.zip
```

これによって、新しい *files* ディレクトリが作成されます。
2. *files* ディレクトリに移動します。

```
% cd /tmp/files
```
 3. *image* ディレクトリに移動します。
 4. インストール中に使用できるシステム上の場所に *floppy.img* ファイルをコピーします。
 5. *floppy.img* ファイルの場所をメモしてから、[第 6 章](#)に進みます。
Windows Server 2003 のインストール中にこの場所が必要になります。

JavaRConsole システムの設定

この章では、オペレーティングシステムのインストール用に大容量記憶装置ドライバや Windows Server 2003 のメディアを取得するために JavaRConsole システムをセットアップする方法を説明します。

注 - 第 4 章でフロッピーローカルと Windows ローカルの両方の方法を選択した場合は、第 7 章に進みます。

- 第 4 章で大容量記憶装置ドライバまたは Windows メディアを取得する次の方法のいずれか 1 つを選択した場合は、JavaRConsole システムをセットアップする必要があります。
 - フロッピーリモート
 - フロッピーイメージ
 - Windows リモート
 - Windows イメージ

注 - 本書では、JavaRConsole ハードウェアのセットアップに関する詳細な手順は説明しません。詳細は、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide for ILOM 1.1.1 (ILOM 1.1.1 管理ガイド)』を参照してください。

JavaRConsole システムの要件

JavaRConsole が次の要件を満たしていることを確認してください。

- Solaris、Linux、または Windows オペレーティングシステムがインストールされています。
- Sun Blade X6220 シリーズの Ethernet 管理ポートにアクセスできるネットワークにシステムが接続されています。
- Java ランタイム環境 (JRE) 1.5 以降がインストールされています。
- JavaRConsole システムを Solaris 上で実行している場合は、JavaRConsole が物理的に接続されたフロッピーディスクドライブ、CD/DVD-ROM ドライブ、またはその両方にアクセスできるように、ボリューム管理を無効にする必要があります。
- JavaRConsole システムを Windows Server 上で実行している場合は、Internet Explorer の拡張セキュリティ機能を無効にする必要があります。

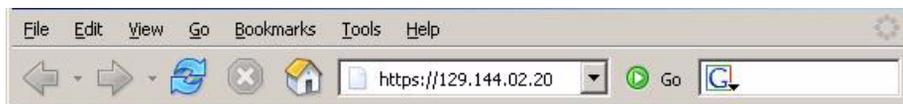
注 – この手順では、『Integrated Lights-Out Manager (ILOM) Administration Guide for ILOM 1.1.1 (ILOM 1.1.1 管理ガイド)』の手順に従って JavaRConsole システムおよび ILOM サービスプロセッサがセットアップされていることを前提としています。

JavaRConsole システムのセットアップ

JavaRConsole システムをセットアップする

1. **Integrated Lights Out Manager (ILOM)** サービスプロセッサの IP アドレスを JavaRConsole システムのブラウザに入力して、リモートコンソールアプリケーションを起動します。

図 6-1 URL の例



「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。

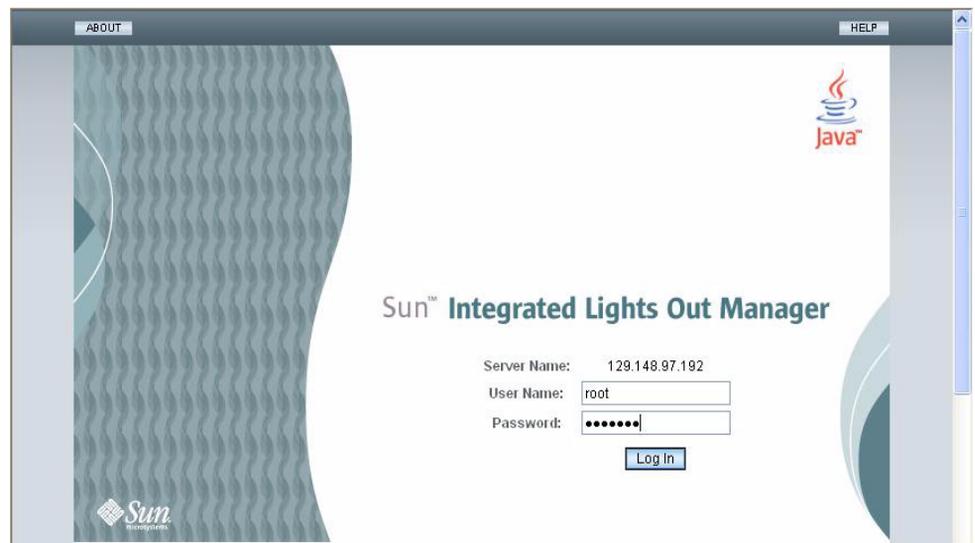
図 6-2 「セキュリティの警告」ダイアログボックス



2. 「はい」をクリックします。

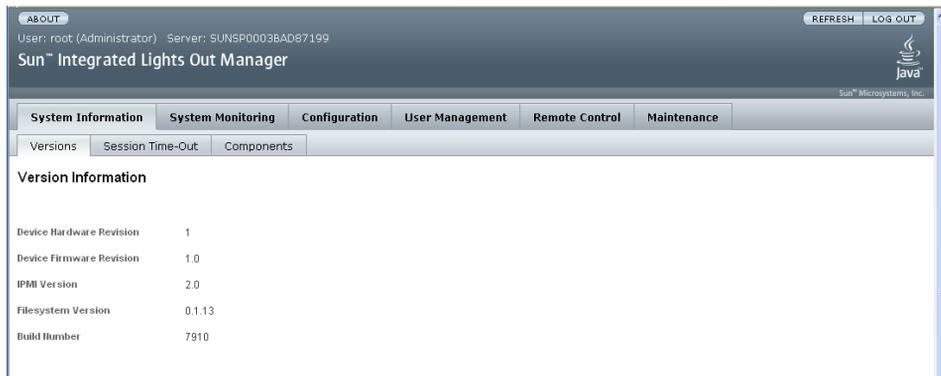
ILOM のログイン画面が表示されます。

図 6-3 ログイン画面



3. ユーザー名とパスワードを入力し、「Log In (ログイン)」をクリックします。
デフォルトのユーザー名は **root**、デフォルトのパスワードは **changeme** です。
ILOM の「Version Information (バージョン情報)」画面が表示されます。

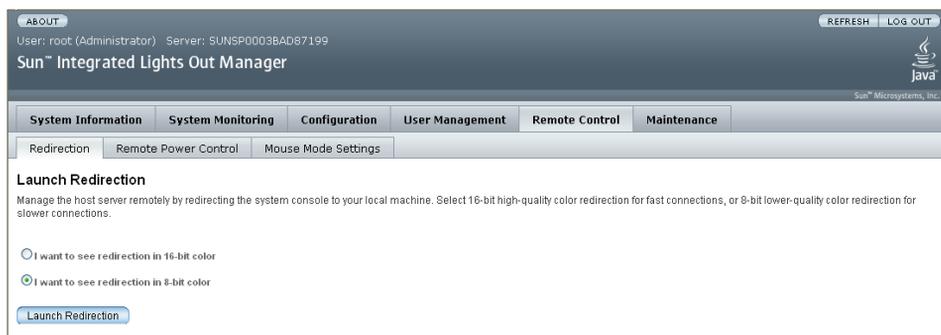
図 6-4 ILOM GUI の「Version Information (バージョン情報)」画面



4. 「Remote Control (リモートコントロール)」タブをクリックします。
「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」画面が表示されます。

注 - 「Mouse Mode Settings (マウスモード設定)」タブでマウスモードが Absolute (絶対) モードに設定されていることを確認します。

図 6-5 ILOM GUI の「Remote Control (リモートコントロール)」画面



5. 8 ビットカラーまたは 16 ビットカラーを選択してから、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックします。

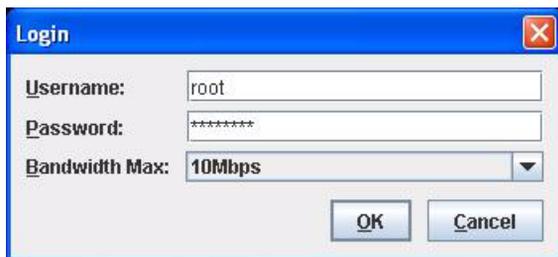
注 – JavaRConsole システムのリダイレクトに Windows システムを使用している場合は、「Launch Redirection (リダイレクトの起動)」をクリックした後に、警告がもう 1 つ表示されます。「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックスが表示されたら、「Yes (はい)」ボタンをクリックします。

図 6-6 「Hostname Mismatch (ホスト名の不一致)」ダイアログボックス



リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスが表示されます。

図 6-7 リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックス

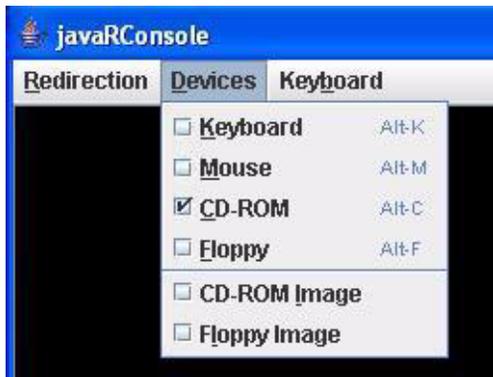


6. リモートコントロールの「Login (ログイン)」ダイアログボックスにユーザー名とパスワードを入力し、「OK」をクリックします。

デフォルトのユーザー名は `root`、デフォルトのパスワードは `changeme` です。

正常にログインすると、JavaRConsole 画面が表示されます。

図 6-8 JavaRConsole の「Devices (デバイス)」メニュー



7. 選択した取得方法に応じて、「Devices (デバイス)」メニューからフロッピーディスクまたは CD のオプションを 1 つ、あるいは両方から 1 つずつ選択します。

- フロッピーリモート: JavaRConsole システムに物理的に接続されたフロッピーディスクドライブのコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy (フロッピー)」を選択します。
- フロッピーイメージ: JavaRConsole システム上に保存された大容量記憶装置ドライブのフロッピーディスクイメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「Floppy Image (フロッピーイメージ)」を選択します。
- CD-ROM リモート: JavaRConsole システムに接続された CD/DVD-ROM ドライブに挿入されたオペレーティングシステムソフトウェア CD のコンテンツにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM」を選択します。
- CD-ROM イメージ: JavaRConsole システム上に保存されたオペレーティングシステムソフトウェアの .iso イメージファイルにサーバーをリダイレクトする場合は、「CD-ROM Image (CD-ROM イメージ)」を選択します。

注意 – CD-ROM リモートまたは CD-ROM イメージのオプションを使用して Windows Server 2003 をインストールすると、CD-ROM のコンテンツにネットワーク経由でアクセスするので、インストールにかかる時間が大幅に長くなります。インストールにかかる時間は、ネットワークの接続状態とトラフィックによって異なります。

Windows Server 2003 のインストール

この章では、Windows Server 2003 のメディアを使用して、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに直接 Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールする方法を説明します。

インストール要件

オペレーティングシステムのインストールを開始する前に、必要な条件を満たしていることを必ず確認してください。

すべてのインストール方法で、次の要件を確認してください。

- 本書のここまでの章に記載されている手順をすべて実行しています。
- フロッピーローカルの方法で大容量記憶装置ドライバをインストールする場合は、フロッピーディスクドライブをシステムに直接接続できるよう 1 つのドングルポートを空けておくために、USB ハブを使用してください。システムに付属のドングルケーブルに USB ハブを接続します。第 2 章を参照してください。
- オペレーティングシステムのインストールについての個別の詳細情報については、Microsoft Windows のドキュメントを参照してください。

注 – Microsoft Windows オペレーティングシステムの全インストールプロセスについては、このセクションでは説明していません。このセクションでは、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Windows Server 2003 をインストールする場合に該当する手順のみを説明しています。

その他、大容量記憶装置ドライバおよび Windows メディアを取得してインストールする各方法に固有の要件は、表 7-1 を参照してください。

表 7-1 各インストール方法の要件

方法	必要な操作または項目
フロッピーローカル	USB フロッピーディスクドライブをシステムの USB ドングルポートに直接接続し、そのフロッピーディスクドライブに大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。*
フロッピーリモート	フロッピーディスクドライブを必要に応じて JavaRConsole システムに接続し、大容量記憶装置フロッピーディスクを挿入します。
フロッピーイメージ	JavaRConsole システムから floppy.img ファイルにアクセスできることを確認します。
Windows ローカル	Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアと DVD-ROM ドライブが使用できる状態にあることを確認します。
Windows リモート	JavaRConsole システムの CD または DVD-ROM ドライブに Microsoft Windows Server 2003 のインストールメディアを挿入します。
Windows イメージ	JavaRConsole システムから Windows Server 2003 のインストールメディアにアクセスできることを確認します。

* Windows Marketplace サイト (<http://testedproducts.windowsmarketplace.com/>) を参照して、USB フロッピーディスクドライブのリストで「Designed for Windows (Windows 専用)」と表示されているものを使用してください。

オペレーティングシステムのインストール

次の手順に従って、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに Microsoft Windows Server 2003 ソフトウェアをインストールします。



注意 – Sun Blade X6220 サーバーモジュールのブートディスクには、Solaris オペレーティングシステムがあらかじめインストールされています。Windows のインストールによりブートディスクがフォーマットされ、すべてのデータが失われます。

1. 「インストール要件」のすべての要件を満たしていることを確認します。

2. Sun Blade X6220 サーバーモジュールのパワーサイクルを実行します。
BIOS POST プロセスが開始されます。
3. BIOS POST 画面に「Press F8 for BBS POPUP (BBS ポップアップを表示するには F8 を押します)」というプロンプトが表示されたら、F8 を押します。

図 7-1 F8 のプロンプト

```
Initializing USB Controllers .. Done.  
Press F2 to run Setup (CTRL+E on Remote Keyboard)  
Press F8 for BBS POPUP (CTRL+P on Remote Keyboard)  
Press F12 to boot from the network (CTRL+N on Remote Keyboard)
```

BIOS POST プロセスが完了すると、「Boot Device (ブートデバイス)」メニューが表示されます。

図 7-2 「Boot Device (ブートデバイス)」メニュー

```
Please select boot device:  
-----  
CD/DVD  
Removable Dev.  
Hard Drive  
NVIDIA Boot Agent 217.0513  
2-NVIDIA Boot Agent 217.0513  
-----  
↑ and ↓ to move selection  
ENTER to select boot device  
ESC to boot using defaults
```

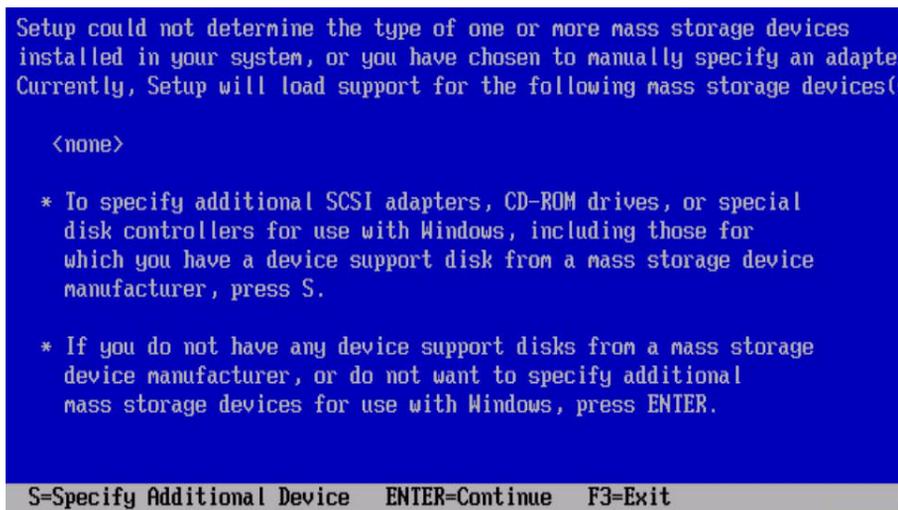
4. Windows ローカルの方法でインストールする場合は、ここで CD を挿入します。

5. 「Boot Device (ブートデバイス)」メニューから「CD-DVD」を選択します。

注 – ステップ 6 で Enter キーを押した後は、すばやく操作を行う必要があります。手順を続行する前に、[ステップ 7](#) と [ステップ 8](#) を読んで作業内容を理解しておいてください。これらのプロンプトは 5 秒間だけ表示されるので、見逃されることがよくあります。このプロンプトが表示されている間に F6 を押さないと、追加のドライバを指定する画面が表示されず、インストールでエラーが発生します。この場合は、システムを再起動してステップ 3 に戻る必要があります。

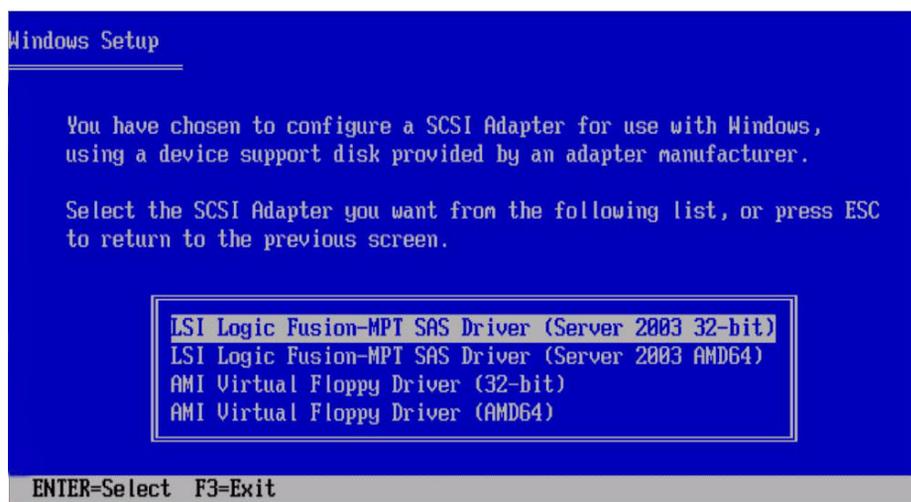
6. Enter キーを押します。
7. 「Press any key to boot from CD (CD からブートするにはいずれかのキーを押します)」というプロンプトが表示されたら、いずれかのキーをすばやく押します。
Windows Setup (Windows セットアップ) の初期に、画面下部に次のメッセージが表示されます。
Press F6 if you need to install a third party SCSI or RAID driver.
(サードパーティー製の SCSI または RAID ドライバをインストールする必要がある場合は、F6 を押してください)
8. F6 キーを押して大容量記憶装置ドライバをインストールします。
追加のデバイスを指定するには S キーを押すように指示する画面が表示されます。

図 7-3 追加デバイスの指定画面



9. 選択した大容量記憶装置ドライバのインストール方法に応じて、大容量記憶装置ドライバにアクセスできることを確認します。
 - フロッピーローカル: Sun Blade X6220 サーバーのフロッピーディスクドライブ A で大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできます。
 - フロッピーリモート: JavaRConsole サーバーのフロッピーディスクドライブで大容量記憶装置ドライバのフロッピーディスクにアクセスできます。
 - フロッピーイメージ: JavaRConsole システムで floppy.img にアクセスできます。
10. S を押して、追加のデバイスを指定します。
使用可能なドライバのリストが表示されます。

図 7-4 SCSI アダプタの選択画面



11. インストールする Windows のバージョン (32 ビット版または AMD64 版の Windows Server 2003) に応じて、適切なバージョンの Fusion-MPT SAS Driver を選択して、Enter を押します。
選択内容を確認し、追加のドライバを選択する画面が表示されます。

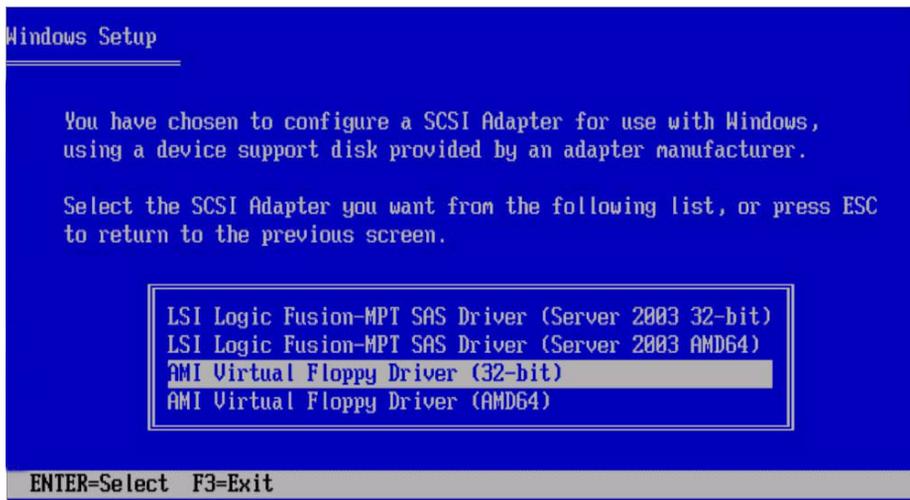
図 7-5 追加デバイスの指定画面



12. フロッピーリモートまたはフロッピーイメージの方法を使用して Windows をインストールしている場合は、s を押します。これ以外の場合は、Enter を押してステップ 14 に進みます。

使用可能なドライバのリストが表示されます。

図 7-6 SCSI アダプタの選択画面



13. インストールする Windows のバージョン (32 ビットまたは AMD64) に応じて、適切なバージョンの AMI 仮想フロッピードライバを選択して、Enter を押します。

Windows セットアップで、選択した両方のドライバを示す次の画面が表示されます。

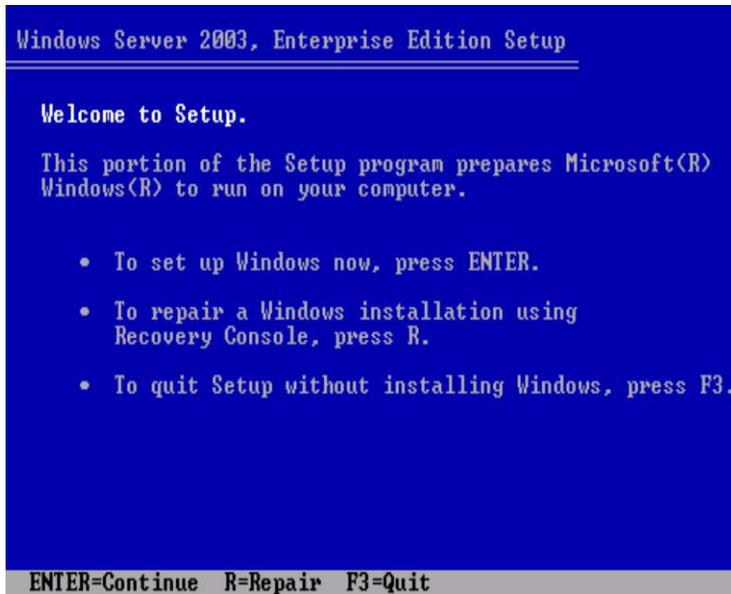
図 7-7 追加デバイスの指定画面



14. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップの起動画面が表示されます。

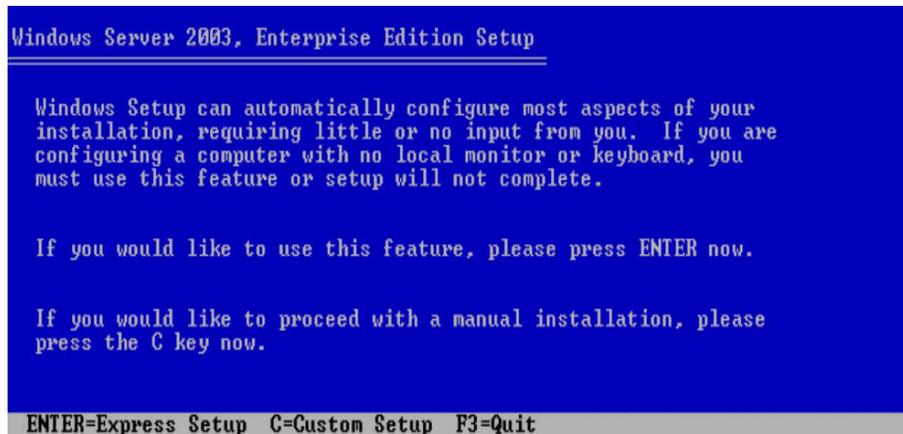
図 7-8 Windows セットアップの起動画面



15. Enter キーを押して先へ進みます。

Windows セットアップが続行され、次に「Express Setup (高速セットアップ)」または「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択するための画面が表示されます。

図 7-9 セットアップの選択画面



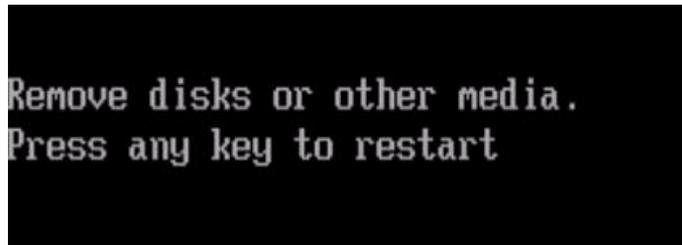
注 - システムディスクでハードウェア RAID を使用する場合は、「Custom Setup (カスタムセットアップ)」を選択し、手動でディスクをパーティションに分割します。ドライブの最後に、64M バイト以上の容量をパーティションで分けずに残しておいてください。

16. Enter キーを押して「Express Setup (高速セットアップ)」を選択します。

17. 画面上の指示に従って、Windows Server 2003 のインストールを完了します。

インストール中に、システムがリブートされ、次のメッセージが表示されることがあります。

図 7-10 ディスクの取り出しメッセージ



このメッセージが表示された場合は、次の手順に従ってインストールを完了する必要があります。

- a. 選択した大容量記憶装置ドライブの取得方法に応じて、次のいずれかの手順を実行します。
 - フロッピーローカル：Sun Blade X6220 サーバーモジュールのフロッピーディスクドライブからフロッピーディスクを取り出します。
 - フロッピーリモート：JavaRConsole サーバーからフロッピーディスクを取り出します。
 - フロッピーイメージ：JavaRConsole のデバイスメニューでフロッピーディスクイメージの選択を解除します。
 - b. いずれかのキーを押してシステムを再起動し、Windows Server 2003 のインストールを完了します。
18. 「[重要なシステム固有のドライブのアップデート](#)」(41 ページ) に進みます。

重要なシステム固有のドライバのアップデート

この章では、インストール済みの Windows Server 2003 を Sun Blade X6220 サーバーモジュール固有のデバイスドライバソフトウェアでアップデートする方法について説明します。Sun Blade X6220 サーバーモジュール用デバイスドライバソフトウェアのアップデートについては、付録 A を参照してください。

この章には次のセクションがあります。

- 「システム固有ドライバのアップデート」(41 ページ)
- 「オプションコンポーネントのインストール」(45 ページ)

この章は、次の準備がすでにできていることを前提としています。

- Microsoft Windows Server 2003 オペレーティングシステムをインストールしています。
- 「サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード」(7 ページ) の説明に従って、InstallPack.exe をダウンロードしています。
- InstallPack.exe をすぐに使用できます。

システム固有ドライバのアップデート

システム固有ドライバをアップデートするには、次の手順に従います。

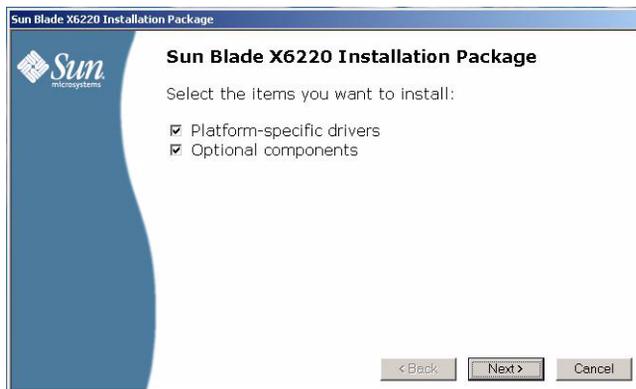
1. InstallPack.exe ファイルを、現在の場所からサーバーのローカルドライブにコピーします。

注 - パッケージ名には、ソフトウェアアップデートパッケージの現バージョンを示す番号も含まれています。

2. InstallPack.exe アプリケーションを起動します。

ファイルが展開され、Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックスが表示されます。

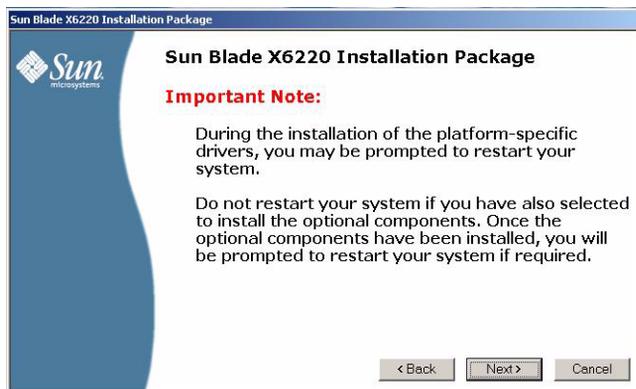
図 8-1 Sun Blade インストールパッケージのダイアログボックス



3. 「Next (次へ)」 をクリックして、デフォルト設定を受け入れます。

注 – 最新のドライバがインストールされるようにするには、「Platform-specific drivers (プラットフォーム固有のドライバ)」を選択してください。

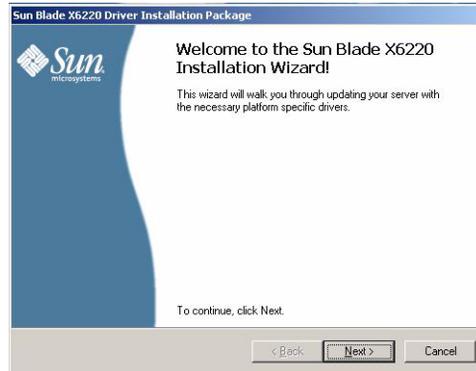
重要な情報のダイアログボックスが表示されます。



4. 情報を確認し、「Next (次へ)」をクリックします。

「Welcome to the Sun Blade Installation Wizard (Sun Blade インストールウィザードへようこそ)」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-2 Sun Blade インストールウィザード



5. 「Next (次へ)」をクリックします。

「End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-3 End User License Agreement (エンドユーザー使用許諾契約書)



6. 「I accept this agreement (同意する)」を選択し、「Next (次へ)」をクリックします。

インストールが続行され、最後にインストール完了ダイアログボックスが表示されます。すべてのドライバのインストールが完了していることを確認します。エラーが発生した場合は、システムをリブートして InstallPack.exe アプリケーションを再実行してください。

図 8-4 インストール完了画面



7. 「完了」をクリックします。

「システム設定の変更」ダイアログボックスが表示されます。

図 8-5 システム設定変更画面



8. ステップ 3でデフォルト設定を受け入れた場合は、「いいえ」をクリックして「オプションコンポーネントのインストール」(45 ページ)に進みます。

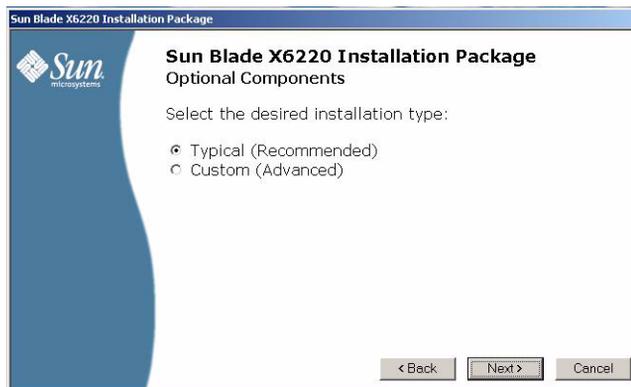
オプションコンポーネントをインストールしない場合は、「はい」をクリックしてコンピュータを再起動します。

オプションコンポーネントのインストール

注 - オプションコンポーネントをすでにインストールしている場合は、インストールを再実行してもオプションコンポーネントは必ずしも再インストールされません。インストール済みのコンポーネントが削除される場合もあるので、ダイアログボックスの内容を注意深く確認して、オプションコンポーネントのインストールを行ってください。

ステップ 8 で「いいえ」を選択し、図 8-1 のダイアログボックスで「Optional Components (オプションコンポーネント)」を選択している場合は、オプションコンポーネントのダイアログボックスが表示されます。

図 8-6 オプションコンポーネントのダイアログボックス



1. 推奨設定を使用する場合は、「Next (次へ)」を選択します。¹

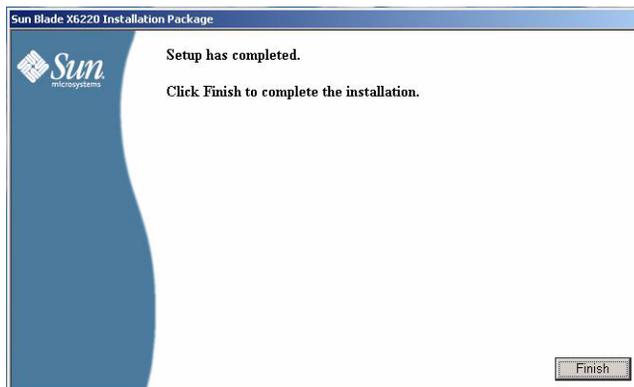
ダイアログボックスの指示に従って、デフォルトのオプションコンポーネントを順にインストールします。

注 - 推奨設定を変更すると、一部のオプションコンポーネントでは、署名されていないドライバと一緒にインストールされます。そのような場合でも、システムは正常に動作します。署名されていないドライバがインストールされるたびにセキュリティの警告ダイアログボックスが表示されますが、「はい」を選択してインストールを続行してください。

1. 推奨設定を変更する場合は、「Custom (カスタム)」を選択して「Next (次へ)」をクリックします。

すべてのデフォルトのオプションコンポーネントがインストールされると、Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックスが表示されます。

図 8-7 Sun Blade のセットアップ完了ダイアログボックス



2. 「完了」を選択してオプションコンポーネントのインストールを終了し、「システム設定の変更」画面 (図 8-5) で「はい」をクリックしてシステムを再起動します。

MegaRAID Storage Manager-IR などのアプリケーションをセットアップして実行する場合は、製品ドキュメントサイトにある『*X64 Servers Utilities Reference Manual* (X64 サーバーユーティリティリファレンスマニュアル)』を参照してください。

RIS イメージへのプラットフォーム ドライバの組み込み

この章は、Sun Blade X6220 サーバーモジュールのドライバパッケージをリモートインストールサービス (RIS) イメージに組み込む必要がある、上級のシステム管理者を対象としています。

この章は、RIS のチュートリアルではありません。あくまで、Sun Blade X6220 サーバーモジュール固有のドライバを RIS イメージに組み込む方法を説明するガイドです。

必要なドライバの確認

RIS イメージに組み込む必要がある Sun Blade X6220 サーバーモジュール固有のドライバを表 9-1 に示します。

表 9-1 RIS インストール用 Sun Blade X6220 サーバーモジュール固有のドライバ

デバイス	32 ビット版 Windows Server 2003 に必要	64 ビット版 Windows Server 2003 に必要
AMD K8 プロセッサ	はい	はい
AMI 仮想フロッピー	はい	はい
LSI 1068E HBA	はい	はい
NVIDIA nForce4 HyperTransport ブリッジ	はい	はい
NVIDIA nForce4 LPC コントローラ	はい	はい

表 9-1 RIS インストール用 Sun Blade X6220 サーバーモジュール固有のドライバ

NVIDIA nForce4 PCI System Management	はい	はい
NVIDIA nForce4 Networking Controller	はい	はい
NVIDIA Network Bus Enumerator	はい	はい

RIS イメージへのドライバの追加

この例では、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch は、ドライバが追加される、RIS サーバー上にあるイメージを指します。

- Language はインストールされているオペレーティングシステムの言語です (English など)
- Dir_name は RIS イメージがインストールされているディレクトリです。
- Arch は、32 ビット版イメージでは i386、64 ビット版イメージでは amd64 になります。

▼ RIS イメージにドライバを追加する

1. RIS イメージの、RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダと同じ階層に、\$OEM\$ フォルダを作成します。
2. \$OEM\$ フォルダに Sun\Drivers フォルダを作成します。
3. DriverPack.zip の内容を一時的な保存場所に解凍します。ディレクトリ構造を変更しないようにしてください。
4. RIS イメージのアーキテクチャー (Arch) に応じて、\$OEM\$\Sun\Drivers\lsi\lsi_sas.sys ファイルを RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダにコピーします。
 - 32 ビット版ではソースのパス名は次のとおりです。
\$OEM\$\Sun\Drivers\32-bit\lsi\lsi_sas.sys
 - 64 ビット版ではソースのパス名は次のとおりです。
\$OEM\$\Sun\Drivers\64-bit\lsi\lsi_sas.sys

- RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch\txtsetup.sif ファイルで、次のテキストを可視テキストの最後に追加します。

```
[SourceDisksFiles]
lsi_sas.sys = 1,,,,,3_4,1

HardwareIdsDatabase]
PCI\VEN_1000&DEV_0050 = "lsi_sas"
PCI\VEN_1000&DEV_0054 = "lsi_sas"
PCI\VEN_1000&DEV_0058 = "lsi_sas"

[SCSI.load]
lsi_sas = lsi_sas.sys,4

[SCSI]
lsi_sas = "LSI Logic Fusion-MPT SAS Driver
(Server 2003 32-bit)"
```

- インストールに使用する .sif ファイルに、次の変更¹を加えます。

表 9-2 Sun Blade X6220 サーバーモジュールの .sif ファイルの変更

32 ビット	64 ビット
[Unattended] OemPreinstall = yes	[Unattended] OemPreinstall = yes
OemPnpDriversPath= “\Sun\Drivers\amd\cpu; \Sun\Drivers\nvidia\smbus; \Sun\Drivers\nvidia\ethernet; \Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\ami”	OemPnpDriversPath= “\Sun\Drivers\amd\cpu; \Sun\Drivers\nvidia\smbus; \Sun\Drivers\nvidia\ethernet; \Sun\Drivers\lsi;\Sun\Drivers\ami”

- すべてのファイルを \$OEM\$\\$1\Sun\Drivers\nvidia\RIS フォルダから RemoteInstall\Setup\Language\Images\Dir_name\Arch フォルダにコピーします。
- RIS サーバーでリモートインストールサービス (BINLSVC) を停止してから、開始します。これを行うには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、各コマンドの後に Enter キーを押します。


```
> net stop binlsvc
> net start binlsvc
```

1. 読みやすいように、OemPnpDriversPath 情報は複数行に分けて表示しています。この情報は、1 行に入力してください。

Sun Installation Assistant CD の使用

この章では、Sun Installation Assistant (SIA) を使用してドライバおよびプラットフォーム固有のソフトウェアをサーバーモジュールにインストールする方法を説明します。この章には次のセクションがあります。

- 「Sun Installation Assistant の使用」 (53 ページ)
- 「開始前のご注意」 (53 ページ)

Sun Installation Assistant CDについて

注 – Sun Installation Assistant CD は、ILOM リモート CD-ROM 機能およびリモートコンソールアプリケーションにより、リモートで使用できます。詳細については、リモートコンソールアプリケーションについて説明したセクションを参照してください。

SunTM Installation Assistant CD ではシステムの準備処理が行われます。サポートされている Windows オペレーティングシステム (OS) を Sun Blade X6220 サーバーモジュールサーバーにインストールする際に便利です。CD には、品質保証テスト済みの Sun 対応ドライバセットが収められています。

Sun Installation Assistant では、次の処理が行われます。

- システム上のハードウェアを識別します。
- オペレーティングシステムをインストールします。
- ドライバおよびプラットフォームに適したソフトウェアを識別してインストールします。

必ずしも Sun Installation Assistant CD を使用する必要はありませんが、この CD を使用した方が Windows OS を簡単にインストールできます。

エラーメッセージ

Sun Installation Assistant にエラーまたは予期しない状態が発生した場合には、エラーメッセージが生成されます。次に、エラーメッセージの例を示します。メッセージはさまざまですが、いずれもわかりやすい内容です。

```
You have inserted Disc 3 but the system requires Disc 2.Please insert Disc 2.
```

(Disc 3 を挿入しましたが、システムには Disc 2 が必要です。Disc 2 を挿入してください)

サポートされていない Windows バージョンの Sun Installation Assistant を使用した場合は、次のエラーメッセージが表示されます。

```
The media you have provided is not a release that is supported by Sun Microsystems, Inc. on this platform.You cannot use the Sun Installation Assistant to install this product and associated software.
```

(挿入したメディアのリリースは、このプラットフォームの Sun ではサポートしていません。Sun Installation Assistant を使ってこの製品および関連ソフトウェアをインストールできません)

このような場合は、次のいずれかを実行します。

- サポートされた製品をインストールするには、「Back (戻る)」をクリックしてから適切なメディアを挿入してください。
- このサポートされていない製品をインストールするには、「Exit (終了)」をクリックして Sun Installation Assistant を終了してから、システムをリブートします。これで、サポートされていない製品を通常どおりインストールできます。

対応するソフトウェアリリースのバージョン番号については、次の Web サイトを参照してください。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6220/os.jsp>.

ログファイルの使用

Sun Installation Assistant のログファイルは、新たにインストールしたシステムのディレクトリに書き込まれます。

このログファイルを確認するには、C:\SunInstallationAssistant.log ファイルを参照してください。

Sun Installation Assistant の使用

ここでは、Sun Installation Assistant を使用して、サーバーに Windows OS をインストールする方法を説明します。Sun Installation Assistant CD は、新しいシステムに同梱されています。

注 – Sun Installation Assistant によって、自動的に OS がインストールされるわけではありません。ただし、ドライバ CD を作成する必要はありません。これは Sun Installation Assistant が自動的に、Sun 対応のドライバをインストールするためです。

Sun Installation Assistant は、サーバーの CD-ROM、またはリモート KVM (CD-ROM のリダイレクト) のいずれかを使用してブートできます。

インストールする Windows システムのメディアには、CD-ROM、またはリモート KVM からリダイレクトされた CD-ROM のいずれかを使用できます。

開始前のご注意

次の情報を収集します。

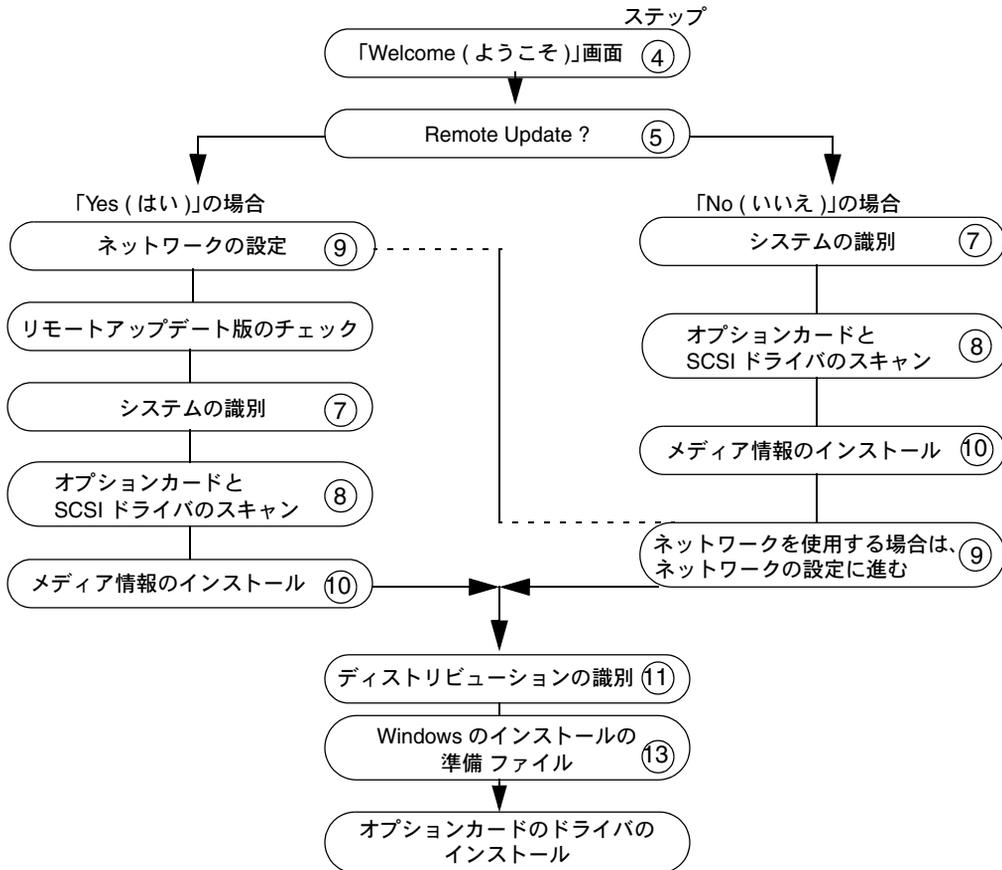
- プロダクトキー
- ホスト名とワークグループ名
- ネットワーク識別情報 (リモートアップデートに必要)

▼ Sun Installation Assistant をインストールする

1. ローカル CD、リモート KVM (CD-ROM のリダイレクト) によるを使用して、**Sun Installation Assistant** をブートします。
2. プロンプトに従って、**Windows** をインストールするメディアまたはネットワークイメージを入力します。

オペレーティングシステムおよびドライバのアップデート方法についてのセクションを参照してください。

図 10-1 リモートアップデートの有無による作業の流れ



作業方法

Sun Installation Assistant を使用するには、次の手順に従います。

1. サーバーの CD/DVD ドライブに Sun Installation Assistant CD を挿入するか、またはリモート KVM (CD-ROM のリダイレクト) を使用します。

注 - ローカル CD/DVD ドライブを使用する場合は、まずシステムの電源を入れる必要があります。ただし CD-ROM をリダイレクトしてリモート KVM を使用する場合は、ターゲットシステム上でサービスプロセッサの電源が入っているため、その必要はありません。

2. サーバーの電源を入れるか、またはリブートします。

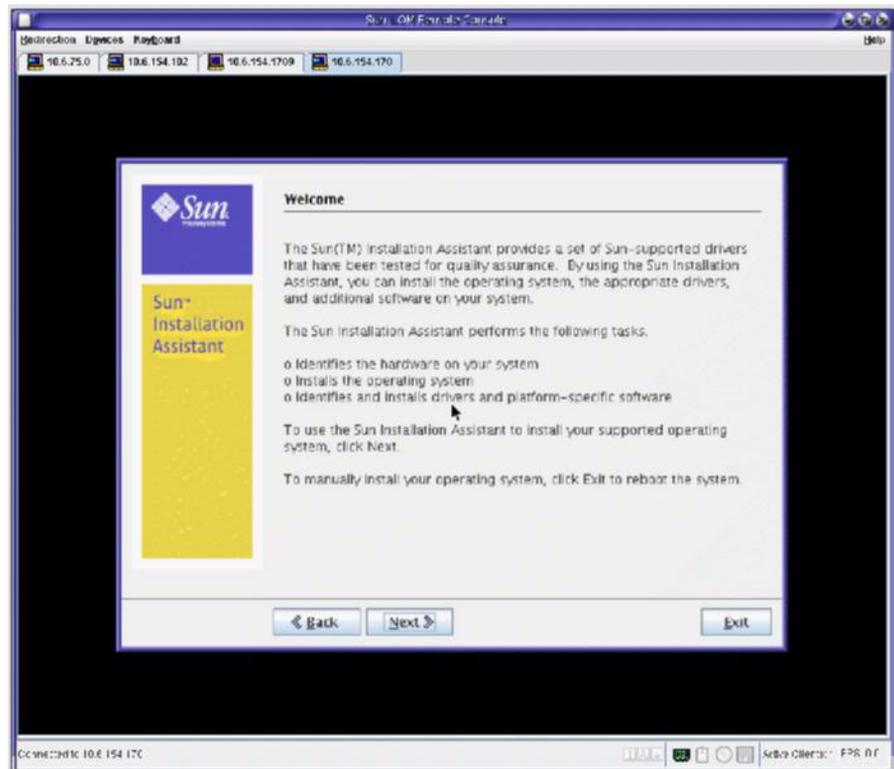
サーバーで、Sun Installation Assistant がブートされます。この処理には数分かかることがあります。ソフトウェアライセンス契約の画面が表示されます。

3. 契約条件をよく読みます。

ライセンスウィンドウの下までスクロールし、「Accept (同意する)」ラジオボタンをアクティブ状態にします。

- 同意する場合は、「Accept (同意する)」ラジオボタンを選択し、「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。Sun Installation Assistant の「Welcome (ようこそ)」画面が表示されます。
- 同意しない場合は、「Decline (同意しない)」ラジオボタンを選択し、「Exit (終了)」をクリックします。これにより Sun Installation Assistant が終了し、オペレーティングシステムを手動でインストールできます。システムにはサーバーをリブートするプロンプトが表示されます。

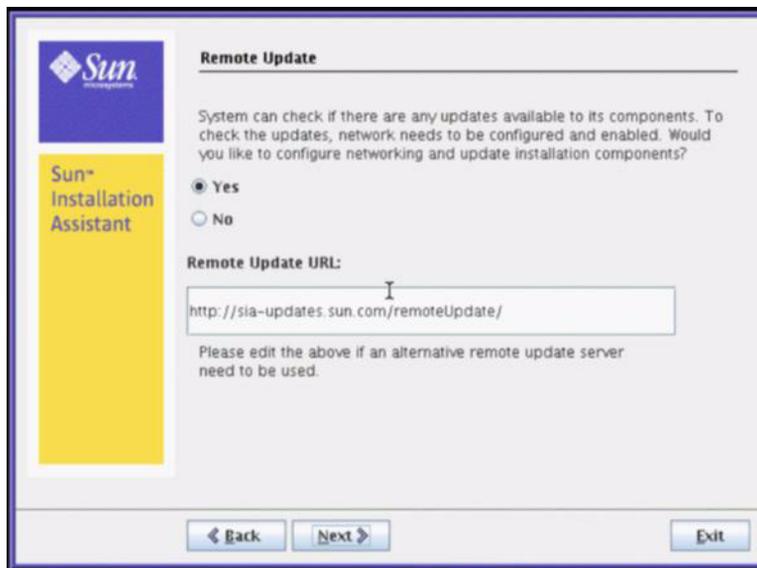
図 10-2 Sun Installation Assistant の「Welcome (ようこそ)」画面



4. 「Welcome (ようこそ)」画面で「Next (次へ)」をクリックします。

「Welcome (ようこそ)」画面では、Sun Installation Assistant の概要が説明されます。「Next (次へ)」をクリックすると、「Remote Update (リモートアップデート)」画面が表示されます。

図 10-3 Sun Installation Assistant の「Remote Update (リモートアップデート)」画面



5. 「Remote Update (リモートアップデート)」画面でアップデートを確認して、「Next (次へ)」をクリックします。

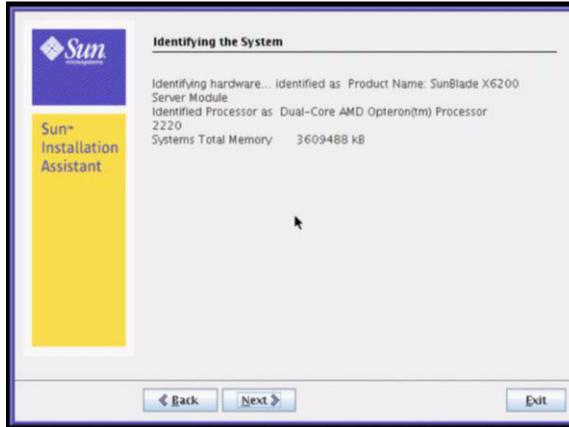
Sun Installation Assistant では、アップデート版をダウンロードして、新しいドライバやプラットフォームを有効にしたり、問題を修正したりできます。

6. この機能を無効にする場合は、「Remote Update (リモートアップデート)」画面で「No (いいえ)」をクリックします。「Yes (はい)」を選択した場合は、ネットワークを設定 (ステップ 11) してからこの手順に戻り、残りの作業を行う必要があります。
リモートアップデートにより、利用可能なアップデートの有無が確認され、アップデート対象のアイテムのリストが表示されます。
7. 「Next (次へ)」をクリックして先へ進みます。

リモートアップデートプロセスでアップデートの有無が確認され、利用可能なアイテムが表示されます。アップデートされたコンポーネントは、必要に応じてダウンロードされます。

8. 「Next (次へ)」 をクリックすると「Identifying the System (システムの識別)」画面 (図 10-4) が表示されます。

図 10-4 Sun Installation Assistant の「Identifying the System (システムの識別)」画面



9. 「Identifying the System (システムの識別)」画面に適切なハードウェアと十分なメモリーが表示されていることを確認し、「Next (次へ)」 をクリックして先に進みます。この画面では、ハードウェア、プロセッサ、およびシステムの合計メモリーが表示されます。

図 10-5 Sun Installation Assistant 用デバイスのスキャン



10. Sun Installation Assistant 用のデバイスを識別する「Scanning for Option Cards and SCSI devices (オプションカードと SCSI デバイスのスキャン)」画面が表示されます。

オプションカードの有無が識別されます。またストレージディスクのスキャンが実行され、結果が表示されます。Sun Installation Assistant は、自動的に次の画面に進みます。

11. 前の画面 (図 10-3) で「Remote Update (リモートアップデート)」を選択した場合は、ネットワークを設定する必要があります。

a. アクティブなネットワークインタフェースを選択します (例: eth0)。

b. 設定方法を選択します (dhcp または静的)。

- 静的な方法を選択した場合は、必要な情報 (IP アドレス、ゲートウェイなど) を入力します。

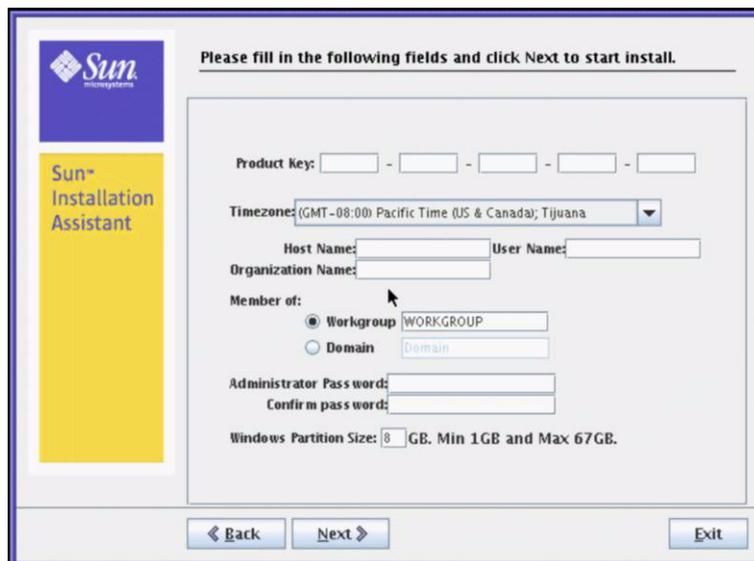
c. 外部の Web サイトへのアクセスに HTTP プロキシが必要な場合は、次のようなプロキシ情報を入力します。

sia-updates.sun.com

d. 「Next (次へ)」をクリックします。

リモートアップデートプロセスで利用可能なアップデートの有無が確認され、リストが表示されます。アップデートされたコンポーネントは、必要に応じてダウンロードされます。「Next (次へ)」をクリックすると、Sun Installation Assistant のインストールダイアログボックスが表示されます (図 10-6)。

図 10-6 Sun Installation Assistant によるインストール開始のダイアログボックス



12. サーバーの CD/DVD ドライブに、サポートされているディストリビューションのディスク 1 を挿入します。

Sun Blade X6220 サーバーモジュールで使用可能な Windows ディストリビューションを、次の Web サイトで確認します。

<http://www.sun.com/servers/blades/x6220/os.jsp>

注 – SP の CD-ROM リダイレクト機能を使用することもできます。第 4 章の CD-ROM ドライブリダイレクトの開始と停止方法について説明したセクションを参照してください。

13. 「Next (次へ)」 をクリックします。

Sun Installation Assistant によって Windows ディストリビューションが認識され、次のようなメッセージが表示されます。

```
Identifying distribution... identified as Windows Server 2003 R2,
Enterprise x64 Edition.
```

(ディストリビューションの識別中 ... Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition と識別されました)

注 – サポートされていないメディアを挿入すると、エラーメッセージが表示されます。

14. Sun Installation Assistant のダイアログボックスで必要なフィールドに入力し、「Next (次へ)」 をクリックすると、Windows インストールファイルが CD にコピーされます。

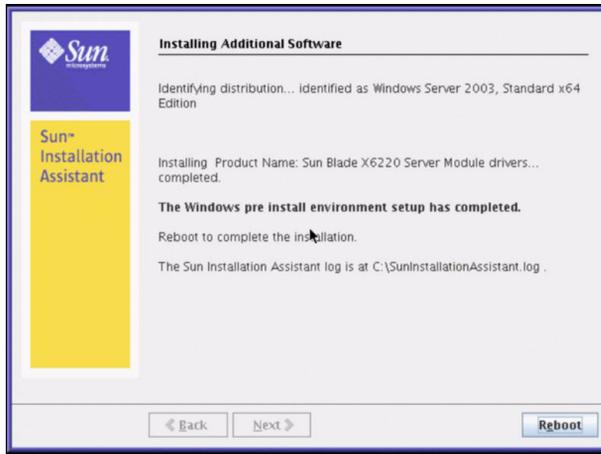
次の情報が必要です。

- プロダクトキー (CD のカバーに記載)
- Windows のパーティションサイズ (Windows OS のインストールに必要なディスク容量)

15. 「Reboot (リブート)」 をクリックすると、このディストリビューションのインストーラが起動します。

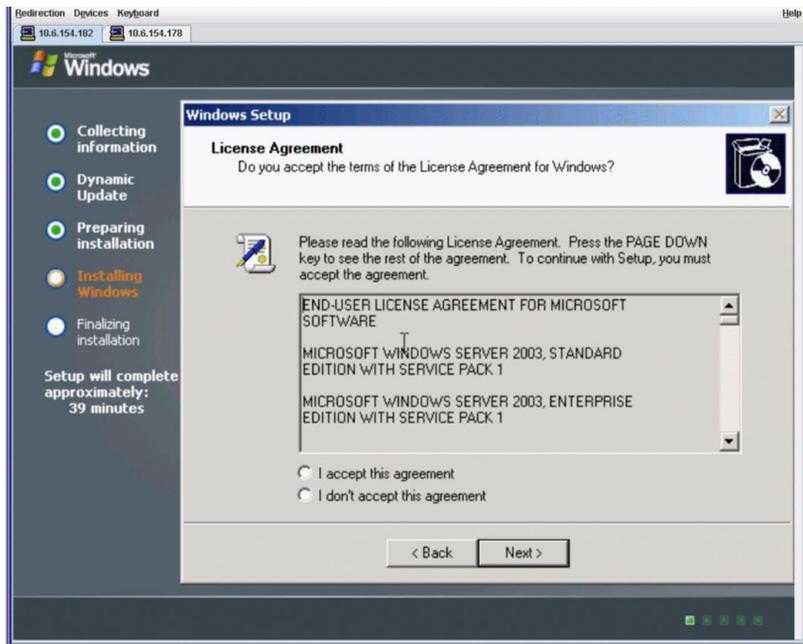
インストール中の Windows バージョンのインストールソフトウェアに切り替わります。インストールが完了すると、新しくインストールしたオペレーティングシステムがリブートします。

図 10-7 Sun Installation Assistant セットアップ完了画面



16. インストール中に Microsoft エンドユーザー使用許諾契約書 (EULA) 画面が表示されたら、「Accept (同意する)」をクリックします。

図 10-8 Microsoft 使用許諾契約書画面



Microsoft EULA に同意すると、画面に表示される手順は終了し、インストールが完了します。

これで、Sun Blade X6220 サーバーモジュールに必要なドライバ lsi、nvidia、ami、および amd がインストールされました。

索引

D

DriverPack.zip 7

F

FloppyPack.zip 7, 13

I

InstallPack.exe 7

J

JavaRConsole

システムの設定 25

システムの要件 26

セットアップ手順 26

JavaRConsole システムの設定 25

K

KVM のリダイレクト 10

O

OptPack.zip 7

S

Sun Blade システムのドライバ 41 ~ 46

Sun Installation Assistant

エラーメッセージ 52

概要 51 ~ 52

使い方 53 ~ 59

ログファイル 52

W

Windows インストールの準備 1

Windows のメディア

CD-ROM のリダイレクト 30

CD イメージのリダイレクト 30

インストールの準備 11

あ

イメージファイル

Linux または Solaris での作成 22

Windows での作成 21

インストール手順の概要 5

エラーメッセージ、Sun Installation Assistant 52

オペレーティングシステムのインストール

Windows のメディアの準備 11

ガイドライン 2

概要 1

大容量記憶装置ドライバの取得 13

大容量記憶装置ドライバの準備 10

手順 32

手順の概要 5

要件 31

か

ガイドライン、オペレーティングシステムの
インストール 2

さ

- サーバー固有のドライバ 7
- サーバー固有のドライバパッケージのダウンロード 7
- サポートされている Windows のバージョン 3
- システム固有ドライバ 41 ~ 46
 - アップデート 41

た

- 大容量記憶装置ドライバ
 - イメージファイルのコピー 20
 - Linux または Solaris の使用 22
 - Windows の使用 21
 - インストールの準備 10
 - 取得の準備 13
 - フロッピーイメージのリダイレクト 30
 - フロッピーディスクの作成 13
 - Linux または Solaris の使用 18
 - Windows での自動作成 15
 - Windows での手動作成 17
 - Windows の使用 14
 - フロッピーディスクのリダイレクト 30
- 手順、オペレーティングシステムのインストール 32
- ドキュメント
 - フィードバック ix
- ドライバ
 - システム固有ドライバのアップデート 41
 - 大容量記憶装置ドライバ
 - 取得の準備 13
 - 取得方法の選択 9
 - ダウンロードサイト 7
 - ダウンロード手順 7
- ドライバのインストール
 - イメージから 10
 - リモート 10
- ドライバのダウンロードサイト 8
- ドライバの入手 7

は

- 表記上の規則 viii
- フロッピーディスクの作成
 - Linux または Solaris の使用 18
 - Windows での自動作成 15
 - Windows での手動作成 17
 - Windows の使用 14
- フロッピーディスクの作成、大容量記憶装置ドライバ 13

や

- 要件、オペレーティングシステムのインストール 31

ら

- リモート KVM
 - Sun Installation Assistant 54
- リモートインストール 10
- リモートインストールサービス (RIS)
 - ドライバの概要 47
 - ドライバの追加 47
 - 必要なドライバ 47
- ログファイル、Sun Installation Assistant 52